

ターゲッテッド インディヴィジュアルズ Targeted Individuals

“標的にされた個人” という言葉をご存知ですか？

大きな組織が一個人を何らかの理由でターゲットにして、その個人の人生を経済的、心理的、身体的にも徐々に追い詰め破壊していく恐ろしいプログラムであり、卑劣で非人道的な犯罪です。その被害者はターゲッテッド インディヴィジュアル、略して TI (標的にされた個人) と呼ばれ、被害者は世界中に存在しております。日本でも NPO 法人の被害者団体では 2018 年には 2070 人の被害者を確認していますが、これはごく一部の数字であり実際の被害者数は相当数に及ぶと思われます。

この犯罪の顕著な特徴は潤沢な資金を持つ大きな組織が後ろに控えており、多くの一般人協力者を使い、ターゲットにした個人を 24 時間 365 日監視して、執拗且つ集団という数で卑劣な嫌がらせ行為を続けます。また同時に一般人には想像しがたい軍レベルの超高度テクノロジーがターゲットに対し使われていると考えられます。電磁波、音波等で遠隔からターゲットを的確に捉え、睡眠妨害、痛みを起こさせ、音声を送信し、またその個人の五感を遠隔から操作します。

2017 年にはキューバと中国に駐在していた数十人ものアメリカとカナダの大使館員とその家族がマイクロ波または音波等の不可視電波で攻撃され脳、内耳に深い損傷を負い大きくニュースでとりあげられました。しかしながら、多くの被害者、TI が同じよう電磁波等による同様の頭痛、眩暈、身体の痛みを訴え続けても警察の捜査対象となることはありませんし、マスコミも正確な報道は一切しません。つまり、この犯罪はかなりの数の被害者が存在するにも関わらず、世間から隠された犯罪なのです。

日本ではこの犯罪を犯罪の特徴を捉え “集団ストーカー・テクノロジー犯罪” と呼んでいます。

この犯罪のターゲットにされている人々は犯罪とは縁のないごく普通の一般人です。ある日を境に訳の分からぬままターゲットにされ、終わりの見えない耐えがたい苦痛の生活が始まります。犯罪に関わる人々の集団性と未知の超高度技術の使用という点で常識を遥かに超えた犯罪なのです。捜査されるような証拠を残さないで、TI が回りの人々に窮状を訴えても、警察に被害の訴えをしても信じてもらえず、強制的に精神病院に送られるケースも後を絶ちません。

このような異常な状況は世界中全く同じです。しかしながら、昨今のインターネットの活用で世界の被害者同志が情報を共有し犯罪の概要と状況を掴み始めています。世界中の TI が纏まり、この犯罪を世間に周知し始めました。その様な中で 昨年 8 月 29 日に初めての世界被害者の日、ターゲッテッド インディヴィジュアルズデー (Targeted Individuals Day) 周知と抗議のイベントが行われ、また今回 4 月 26～27 日 Spring Rally がアメリカ、カリフォルニア州サクラメントを中心に行われます。世界の TI が理不尽な犯罪被害の訴えをします。

何時あなたも、あなたの家族や身内の方もこの犯罪被害者になるかもしれません。他人事とは思わず、是非インターネットで検索してこの恐ろしい 世界犯罪 のことを知って頂き、犯罪を止めさせるためにご協力を切にお願い申し上げます。